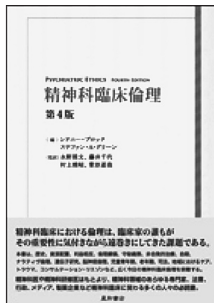


## 書評



## 精神科臨床倫理 第4版

シドニー・ブロック, ステファン・A・グリーン 編  
水野雅文, 他監訳

星和書店 2011年11月  
752頁, 定価 7,140円

精神科の倫理の本, しかも721頁に及ぶ大著の翻訳本と聞くとそれだけでげんなりされる方も多いのではないのでしょうか。下記にお示りする本書の25のトピックだけみると, 多岐に渡る事項が羅列されていて適宜, 必要な所に目を通し, 眠気がさせば枕にするのに丁度よい本という印象を受けるかもしれません。しかし, 本書は, それぞれの章が完全に独立していて, 各章を担当する著者が領域全体の課題を俯瞰しつつもいきいきと自説を展開していくという構成になっており, 各章とも読み物として十分におもしろく読み始めるとなかなか眠れません。

本書は30年に渡って改訂を重ね, 1999年の第3版に下記の右肩に\*を付している5つの章を追加して第4版に至ったそうです。第I部は総論として概観, 歴史, 哲学的基礎, ナラティブアプローチ\*, 哲学と科学の融合領域, 専門職の意義, 精神医学の乱用, 精神保健資源の配置, 精神科医と製薬産業の利益相反\*, 倫理綱領という10のトピックを取り扱っています。第II部では総論と精神科臨床各論の間に位置する守秘義務, 非自発入院, 自殺, 境界侵犯, 精神医学研究, 倫理学と精神科遺伝学, 脳神経倫理学\* という7つの重要なトピックを取り上げています。第III部では精神科臨床の各論として, 薬物療法, 精神療法, 児童精神医学, 老年精神医学, 司法精神医学, 地域精神科医療, 心的外傷後ストレス障害\*, コンサルテーション・リエゾン精神医学\* の各々に関わる倫理的課題という8つのトピックについて検討されています。

本書の特徴は, 精神医療保健制度のドラスティックな改革や医学研究を推進してきている欧米において練られてきた精神科領域の倫理の本であるということにあるでしょう。相反する立場の考えも含め幅広く配慮するべき点が紹介されていますが, その中で各著者の自説が力強く押し進められています。その分, 確かに筋は通っているがそこまで言い切るのか, あるいは, 物事を一面的にしか捉えていないのではないかと

感じるところもあります。この本に書かれていることをそのまま本邦の現場での指針とすることはできないでしょう。しかし, この本を日本人である我々が読むことは, 各領域の本質的な課題を把握するだけでなく, 欧米流の問題の掘り下げ方, 倫理的な思弁法を追体験することを通して, 知識習得以上の何かをもたらすことと思います。本邦における同領域の出版物として, 「精神科臨床における倫理—法と精神医学の対話(法と精神医学の対話3) 金剛出版, 1996年」や「精神医学・医療における倫理とインフォームド・コンセント(臨床精神医学講座) 中山書店, 2000年」がありますが, 読み比べてみることも意義深いと思われる。

今日, 精神科の臨床や研究に携わる上で倫理の問題は避けては通れない問題であることはわかっている, 苦手意識を持たれがち, 敬遠されがちなところがあります。しかし, 心病む人のために何かをしたいと精神医療・医学を志した私達にとって, 多様な選択肢から何を行うべきで何を行うべきでないのかを考えることは関心の中心にあるはずで, 本来, 倫理的思弁は我々を精神医療・医学の世界に推し進めるいきいきとしたものであるはずで, 本書を手元において, 折に触れ目に留まった章を読むことは, そのような倫理的思弁のダイナミックスを呼び覚ますきっかけにもなるような気がします。

倫理的な基盤が脆弱だったことが精神科の臨床, 研究の発展の歩みを緩めてきた大きな要因の1つといっても過言ではないでしょう。欧米では医療保健制度や医学研究の倫理的側面の検討や基盤づくりに日本とは桁違いの資金と人手をかけられていることが, 本書文中の随所に見て取れます。本書の編者は, そのような欧米においてさえ精神科領域の倫理教育が立ち後れていると論じており, 倫理教育推進が本書改訂のモチベーションとなっているそうです。本邦においても, もっと倫理的基盤の整備に力を入れることが重要であるとともに, 倫理教育の推進は大切な課題といえるでしょう。本書は, 編者が倫理教育に必要と指摘することのうち, 倫理教育の具体的な目標設定のあり方, 倫理的推論を行う力を如何に養うかということのヒントがたくさん詰まった書籍といえます。

監訳者の序に倫理の本ということで予想される読者数(出版社の採算)の観点から本書の翻訳が長年見送られてきたこと, あまりにも難解な文体に翻訳が行き詰まったことが紹介されています。日本語訳は原文が難解であったことを感じさせない読み易いもので, 翻訳者のご尽力に感謝するとともに, 精神医療保健, 医学に関わる多くの方に読んで頂きたいと願います。

(富田 博秋)